

県研究主題

一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた教育課程の編成と教育活動の展開の工夫・改善

提案1

提案者 吉岡 久美子 (川崎地区)

<研究主題>

発達の段階や障害の特性を踏まえた教材・教具の工夫

— 国語「詩をよもう」の学習を通して —

1 提案内容

特別支援学級の国語科では、発達の段階の違いで学習内容が大きく異なるため、個別学習で進めることが多い。しかし、国語科の指導を合同学習でも設定することで、児童がより意欲的に取り組み、他の児童のお手本を真似ることのできるようになるのではないかと考え実践をした。

本提案では、国語科の合同学習「ことばであそぼう～詩をよもう～」についての提案である。

(1) 研究方法と内容

- ① 生活単元学習での、通常級との交流会での発表という集会活動につなげる。
- ② 国語科における「話す」「聞く」「読む」「書く」の観点別の段階表を作成し、この段階表をもとに、児童一人ひとりの単元目標を設定し、指導計画を立てて取り組む。
- ③ 児童の興味・関心を考慮して、詩の選定や教材・教具の作成を行う。

(2) 実践の実際

① 指導計画

合同学習において児童全員が無理なく取り組める活動を考えた。毎時間の授業の流れをパターン化し、授業の見通しを持たせた。詩の情景をイメージしやすくするため、小道具を用意した。音読カードを作成し、児童は何度も音読をした。

② 教材・教具の工夫

ア 「話す・聞く」のポイントを掲示

話す時の姿勢、声の大きさ、聞く時の姿勢等、図や短い言葉でポイントを常時掲示し、必要に応じて確認した。

イ 語彙を増やすためのゲーム

「ことばであそぼう」の学習の中で言葉ゲームを取り入れた。ゲームを通して、遊びの中で言葉を覚え、覚えた言葉を使えることを目指した。

ウ 指示をよく聞くことに焦点をあてたゲーム

授業のはじめに、「あたまたいそう」として「よく聞く」、「言われたことをする」ことに焦点をあてたゲームを取り入れた。

エ 口のたいそう

発音が不明瞭な児童が多く、口や舌の動きに課題が多かったので、日常に口と舌の体操を取り入れた。

オ 詩「のはらうた」

繰り返し読むために、一人ひとりに「のはらうたノート」を作成した。音読がんばり表も一緒に貼り、個別学習や家庭学習でも詩の音読に取り組んだ。

### ③ 段階表の作成

聖坂養護学校の生活力段階表を参考に、段階表の作成を行った。これにより、児童一人ひとりが、今どの段階にいるのか、何を目標にしていくのかが明確になった。

### ④ 児童同士の関わり合い

グループ活動を取り入れ、意図的に協力できる場面を設定した。例えば、上級生と下級生、同じ発達段階の児童同士など、場面によって児童の組み合わせを工夫した。席順や指名の順にも配慮し、個別対応が必要な児童のそばについてT2の担任が対応した。授業の最後に、振り返りの場を設け、自分の頑張りだけでなく、友達のよかったところを発表することで関わり合いを意識化した。

## (3) 成果と課題

文字が未習得の児童も詩を覚えて暗唱できるようになった。学習に集中しにくい児童が、役割を与えられることで意欲が高まり、最後まで取り組めた。合同学習では、個別学習では得られない児童同士の関わり合いが生まれ、お互いが認め合うことができるような相乗効果があった。段階表を作成し、児童の実態把握、目標設定をしたことは有効であった。児童の発達の段階によっては内容や取り組み方を工夫する必要があった。

## 2 協議内容

グループ協議では、「一人ひとりの教育的ニーズに応じるための実態把握の仕方と教材の工夫（発達の段階や障害の特性を踏まえた教材・教具の工夫）」を柱に協議を行った。

### (1) この提案に関する参考になった点

- ・ 児童の実態把握を、段階表を参考に客観的に行おうとしている。
- ・ 詩をうまく教材化している。児童が楽しくやる気の出る取組である。言葉だけではない五感を生かし発話のない児童も参加できている。他の教員がすぐに実践できる発表内容だった。教具もすぐに作れる。パターン化された学習内容で見通しが立てやすい。
- ・ 合同学習を上手く活用している。個別の目標を設定し、個を伸ばすこともできている。

### (2) 各校の実践の様子

- ・ 市独自の児童の実態把握のための段階表があり活用している。MIMも使用している。
- ・ 児童の実態把握には、日々の教員による見取り、教員間の情報交換も大切にしている。
- ・ 言語聴覚士、養護学校、通級等の専門機関との連携をとっている。
- ・ 合同学習は交流できる段階の児童も一緒に行うと、児童全体が伸び、良い影響がある。

## 3 まとめ

### (1) アクティブ・ラーニングの視点で作る特別支援学級の授業づくり

特別支援学級では、児童の個人差は大きく一人ひとりの目標を個に応じて設定し、指導している。指導の経過・評価をもとに確実に達成させていく。段階表を作成し活用することも方法の一つであり、次年度への継続的な支援や個別指導計画にもつながる。個別指導計画を活用するしくみを学校全体で考えていく必要がある。特別支援学級におけるアクティブ・ラーニングの視点の導入は、今までの実践の上に、新しい視点を付け加えて実践していくとよい。

## ＜研究主題＞

人間関係の形成に向けての取り組み

— 個々の教育的ニーズに応じた特別支援学級での指導を通じて —

## 1 提案内容

特別支援学級に途中から在籍することになった児童が、もともと特別支援学級にいた友だちや教員と関わることに拒否感を示していた。周りとの人間関係を作り、主体的に学習に向かう姿勢が見られるようにするための取組、指導の工夫、児童の変容を伝えたい。

## (1) 実践に向けての課題意識

情緒が不安定で離室や他害に及ぶ児童がいた。特に高学年2名の言動に課題がある状況で、人に対して関わることの抵抗感を持っているように見えた。人と関わりながら生活する力を育成するために、自立に向けた人間関係の形成を目指すことを目標として、各児童の実態を把握した取組を実践することにした。

## (2) 実践について

よりよい人間関係の形成のために、各児童の実態に即して各教科、生活単元学習等の全教育活動を見直し、工夫した。また、家庭とも連携を密にして、学校と家庭が一貫した支援を行えるようにした。

## ① 全体を通して気を付けたこと

ア 小さなことも見逃さずにはめる。

イ 主体的に選ぶ機会を与える。

ウ 場面設定を工夫する。(一斉、グループ、個別)

## ② 各教科、行事等での取り組みの工夫

ア 国語 伝え合い活動を取り入れる。(例：「20のとびら」、「何に見える?」)  
コミュニケーションの素地を養う。自分の思いや考えを伝える。

イ 算数 伝え合い活動を取り入れる。(例：お買い物ごっこ)  
役割を決めて、やりとりを楽しみ、コミュニケーションの素地を養う。

ウ 音楽、体育 共同活動を大切にする。(例：合唱、準備、片付け)  
友だちや教員と楽しく関わる。集団に参加するための手順やきまりを理解する。

エ 図画工作 伝え合い活動を取り入れる。(例：作品の発表、鑑賞)  
友だちの作品を見て自分の思いを伝える。

カ 遊びの指導 共同活動を大切にする。(例：カードゲーム、すごろく)  
ルールを守って、みんなで活動する楽しさを味わわせる。

キ 宿泊学習 共同活動、集団行動を大切にする。  
日常学んでいることを、進んで生かすようにする。

ク 生活単元 集団行動をする。(例：散歩、畑での作業、調理、お楽しみ会)  
一つの集団としてペースを合わせながら歩いたり、協力して活動したりすることで、集団行動の良さやルールを知る。

## ③ じっくりパーティー（生活単元）の取り組みの工夫

ア 「参加するみんなが笑顔になる活動を考える」という活動目標や、活動の中で守

るべき約束を最初に伝える。

絵カードで視覚的にわかりやすく伝え、見通しを持って活動できるようにする。

イ 友だちを意識したプラスの言動、思いやりのある言動が見られたらすぐにほめる。

また、仲間と活動を作り上げる、責任をもって役割を担うという意識を持たせる。

ウ 伝え合いの場面を設定する。

伝え合うときのルールを守らせて、安心して発表できるようにする。

#### ④ 子どもの変容

ア 主体的に取り組む姿勢(集団の中で役立とうとする姿)が見られるようになった。

イ 意欲的に友だちと関わる姿、友だちを思いやる姿が見られるようになった。

ウ 一つの活動をみんなで楽しめるようになった。

### (3) 成果と課題

共に協力して活動をするという場面を設定し、互いに認め合う経験をすることで、それぞれの児童にコミュニケーション力が育まれた。

課題としては、特別支援学級で身に付けた力を、交流級や学校以外の場面で発揮できるよう支援していくとともに、これからは特定の相手だけと関わるのではなく、様々な場面で必要な相手とコミュニケーションを取れるように、場面設定を工夫していきたい。

## 2 協議内容

「より良い人間関係を形成するための工夫 ～一人ひとりに合ったコミュニケーション手段の見つけ方～」を柱にグループ協議を行った。

### (1) 人間関係形成のための工夫(人と関わり合う場面の設定)

① 児童が楽しいと思える活動を工夫し、ルールを明確にして、友だちとの関わり合いができるようにする。

② 関わり合いの段階を大切にする。児童対大人の1対1の関係づくりができてから、児童同士で関わり合えるようにする。

③ 適切な言葉づかいを具体的に伝え、よい言動があった場合はすぐにほめる。

### (2) 意志の表出の工夫

① 安心できる場、自信を持って意見を言える場の設定をする。

② 児童が選択する場面を作る。

③ 自ら要求をさせるために、あえて不足の場面をつくる。

## 3 まとめ

### (1) 人間関係の形成について

自己理解から他者理解へ、段階を踏んで人間関係を広げていく。児童が主体的に活動できるような工夫、児童に考えさせて行動させる工夫が大切である。また、集団の中での役割を与え、その中で活動しているという意識を持たせることも重要である。振り返りでは、肯定的に自己評価ができるようにするとともに、先に、めあてを明確にしておくことが大事である。

### (2) 意志の表出について

個に応じた指導では個々の見取りが大切である。できないことに注目するのではなく、できることを増やせるような工夫をすることが自尊感情を高めることにつながる。